

議事次第

平成18年12月12日
北海道開拓記念館(講堂)

- 1 開 会
- 2 林野庁北海道森林管理局計画部長挨拶
- 3 委員の紹介
- 4 議 事
 - (1) 平成18年度の取組と今後の展開について
 - (2) ニセアカシアの取扱いについて
 - (3) その他
- 5 その他
- 6 閉 会

平成18年度の取組と今後の展開

風倒被害箇所における森林づくり

1 市民参加の森林づくり

(1) 「みんなで森林づくり」

北海道野幌森林公園事務所、江別市及び北海道林業技士会と連携し、市民、野幌小学校の皆さんの参加をいただいて、「みんなで森林づくり よみがえれ！「野幌の森」2006」を開催。

なお、「みんなで森林づくり」の植栽は、19年度をもって終了する予定。

○「みんなで森林づくり」の取組状況

区 分	18年度	(参考)17年度
植栽日	18.5.17	17.5.18～18.7.31
場所(林小班)	41ほ14、41ほ15	42ほ、42へ
面積(ha)	0.61	1.06
植栽樹種	トドマツ、ミズナラ、カツラ等6種	トドマツ、クロエゾマツ、ミズナラ等11種
植栽本数	720本	1,050本
参加人数	180名	240名(5月イベント時)

「みんなで森林づくり」(18年5月の植栽風景)



(2) 「団体型森林づくり」

NPO等12団体が、現地を所管する石狩森林管理署と森林づくりの協定を締結して自主的に植栽、下刈等を実施。

なお、「団体型森林づくり」による植栽は、19年度をもって終了する予定。

「野幌森林再生活動連絡会」の設置等

「団体型森林づくり」に参加する12団体相互の情報交換、各参加団体と国有林等関係機関との意見交換等の場として設置。

第1回連絡会を18年2月22日に開催し、参加団体の17年度活動実績と18年度活動予定の報告や活動時の留意事項の連絡のほか、各団体の取組について意見交換。

なお、今年度の開催は、19年2月頃を予定。

○「団体型森林づくり」の取組状況

	団 体 名	活 動 内 容	
		18年度	(参考)17年度
1	NPO法人 森林遊びサポートセンター	補植、下刈	植栽
2	北の森21運動の会	植栽、下刈	植栽
3	NPO法人 北海道森林ボランティア協会	植栽、下刈	地拵 一部植栽
4	社団法人 北海道トラック協会	植栽、下刈	植栽
5	北海道ガス株式会社	植栽	植栽
6	野幌森クラブ	植栽、下刈	播種
7	札幌もいわライオンズクラブ	生育等調査	植栽
8	レディースネットワーク21	植栽、下刈	現地調査
9	(有)樹木コンサルタント	植栽、下刈	一部植栽
10	NPO法人 シーズネット	植栽	現地調査
11	NPO法人 EnVision環境保全事務所	植栽	現地調査
12	酪農学園大学	生育等調査 一部植栽	現地調査

(協定締結順)

「団体型森林づくり」の様子



(北の森21運動の会)



(NPO法人 シーズネット)



(社団法人 北海道トラック協会)



(12団体が参加する野幌森林再生活動連絡会)

2 森林管理署による森林づくり

既設の駐車場、歩道等から離れ、市民参加による森林再生活動が困難な風倒被害箇所については、石狩森林管理署で対応。

18年度は、所要の植栽や下刈等を実施。被害箇所の植栽は、本年10月に全て終了。

○ 石狩森林管理署の植栽箇所（39よ、か林小班）



3 風倒被害箇所における植栽の実施状況

(単位:ha)

区 分		予 定	実施計	18年末残	
風倒被害箇所合計		71.43	26.51	6.44	
天然林	自然の推移	21.54	—	—	
	国有林造林	1.46	1.46	0	
	天然林計	23.00	1.46	0	
人工林	自然の推移	14.77	—	—	
	観察・調査研究、モニタリング調査	2.17	—	—	
	市民参加	みんなで森林づくり	2.76	1.67	1.09
		森林づくり塾	0.52	0.52	0
		団体型森林づくり	14.72	9.37	5.35
		計	18.00	11.56	6.44
	国有林造林	13.49	13.49	0	
人工林計	48.43	25.05	6.44		

野幌の豊かな森林環境を生かした森林環境教育の推進

1 森林教室等の取組

森林づくりの取組、森林と人とのかかわり等について理解を深めていただくため、市民の皆さんを対象とした森林教室等を、地元自治体等と連携して開催。

18年度は、酪農学園大学の学生（計2回、120人）、江別市立第一中学校の生徒（計2回、270人）、地域活動支援センター通所者（10名）を対象に実施。

2 「野幌森林づくり塾」

NPO法人ねおすと連携し、家族、友人同士、個人の方々約30人を対象に、18年度は全4回（17年度は全3回）の予定で、これまでに3回開催。

○ 支援センター通所者を対象とした森林教室の様子



○ 「野幌森林づくり塾」の実施状況

区分	開催テーマ	実施内容
第1回 18. 6. 10	野幌の100年前の原始性が感じられる森林づくり・木の苗を植えてみよう	風倒被害の概況と森林再生の取組の説明、風倒被害箇所での植栽等
第2回 18. 7. 8	植えた木を大きく育てよう・下草刈りをしてみよう	17年度植栽箇所の生育調査、下刈等
第3回 18. 10. 7	木の種を探そう・植えてみよう・森の分解者を探そう	種子散布の形態、播種・育苗についての学習等
第4回 19. 3. 10	冬の森を感じよう・冬芽、葉痕等を観察してみよう	動物の足跡と糞の観察、冬芽・葉痕の観察等

○ 森林環境教育の様子



(大学生に対する野幌プロジェクトの説明)



(野幌森林づくり塾：根返り木の学習)



(中学生を対象とした森林教室：森林の役割について学習)



(野幌森林づくり塾：植栽木や天然生稚樹の生育調査)

風倒被害箇所等を対象とした調査研究の推進

1 「観察・調査研究の場」の設定等

(1) 設定の概要

風倒被害後の植生の変化等自然の推移の観察や、森林再生等に関する調査研究を行うため、風倒被害木の搬出等の処理を一切行わず、風倒被害時のまま保存。

(2) 現地の利用状況等

18年11月13日、日本森林学会北海道支部大会において、春木助教授（北海道大学大学院）等が、「野幌国有林における二、三の天然生林分と生育立地」と題して発表。

17, 18年の調査研究により、「根返りマウンド」は樹木の風倒軽減に重要な要素であることなどが推察されているところ。

また、現地は、風倒被害の状況等を学習する森林教室の場としても利用。

○「観察・調査研究の場」の状況（46は、に林小班）



2 「野幌自然環境モニタリング検討会」の設置等

(1) 設置の概要

森林の回復状況を把握し、今後の森林再生活動に反映させるために必要なモニタリングの対象項目、調査方法、調査箇所等や、市民参加のモニタリングの検討等を目的に設置。

第1回検討会を18年3月9日、第2回検討会を5月31日に現地で開催。

(2) 検討状況とモニタリング調査

モニタリング調査の時期を失しない観点から、「森林植生」、「歩行生甲虫」、「菌類」、「動物」の4項目の調査については先行的に実施。

18年度末までにはモニタリング調査に関する基本方針をとりまとめる予定。

○ 検討会委員

春木雅寛（北海道大学大学院地球環境科学研究科助教授）

平川浩文（森林総合研究所北海道支所森林生物研究グループ長）

堀 繁久（北海道開拓記念館事業部教育振興課長）

村野紀雄（酪農学園大学環境システム学部教授）

矢島 崇（座長）（北海道大学大学院農学研究科教授）

（五十音順）

○ 「モニタリング検討会」の様子



（第1回検討会）



（第2回検討会）

植栽箇所等の状況

1 植栽箇所における天然生稚樹の状況

早期に多様な樹種・樹冠層から成る森林を再生していく観点から、現地の状況を考慮しつつ、種々の樹種の植栽と自然に発生した天然生稚樹を組み合わせた森林づくりを推進しているところ。

植栽箇所では、エゾイタヤ、センノキ、ミズナラ、ホオノキ等の天然生稚樹の発生が見られ、現在のところ、植栽木と天然生稚樹の生育状況については、全ての箇所でおおむね良好。

2 案内板等の整備

老朽化、破損等した案内板等については、修復又は撤去等を進めているところ。

今後とも森林の風致・景観等に配慮し、引き続き関係機関と調整・連携しながら、公園利用者の便に供するよう、順次整備に努める考え。

○ 自然に発生したキタコブシ（赤枠）とミズナラの植栽木（黄枠）



○ 損傷が著しいため、撤去した案内板



ニセアカシアの取扱い

ニセアカシアの取扱い

1 森林づくりの箇所におけるニセアカシアの生育状況等

現在特に、市民参加の森林づくりの箇所の一部（「団体型森林づくり」の植栽箇所 41ほ林小班等）においては、ニセアカシアの稚幼樹が繁茂。

今年度の下刈時を利用したニセアカシアの稚幼樹の刈り払い後も相当数の個体が生育し、当該箇所の再生活動に参加する関係者は、郷土樹種を生かした今後の森林づくりを懸念。

2 今後の取扱い

市民参加等による森林づくりの箇所においては、「野幌の100年前の原始性が感じられる自然林を目指した森林づくり」や、市民の皆さんを対象とした森林学習の観点から、

- (1) 現地及びその周辺のニセアカシアの母樹の伐採と、萌芽枝・稚幼樹の刈り払いや抜き取り
- (2) 今年度実施した稚幼樹の刈り払い等の継続
- (3) 植生の変化の観察など、森林学習の場として設定をする考え。

今後、関係機関及び当該箇所の参加団体と調整・連携を図りながら実施。

ニセアカシアの生態的特徴等

- (1) 原産国は、北アメリカのアパラチア山脈周辺
- (2) 強光利用型の典型的な陽樹・先駆樹種。根萌芽によって高密度のクローン林をつくる。
- (3) 伐採後も根株、根系から多数の萌芽枝を出す。
- (4) 成長が早く、1年で4.5m、2年で7mに達するものもある。
- (5) 多くの種子は土壤中で休眠し埋土種子となる。
- (6) 根粒菌と共生し、貧栄養地でもよく育つ。
- (7) 高品質の蜂蜜がとれる。等

（北海道立林業試験場資料から引用）

ニセアカシアの稚幼樹の繁茂状況（17年時）



（「団体型森林づくり」の植栽箇所41ほ林小班外）

下刈後に自然に発生したニセアカシアの稚樹(赤粋)(18年9月)



ニセアカシアの稚幼樹の抜き取り(18年7月)



残幅に生育しているニセアカシアの幼樹



(「団体型森林づくり」植栽箇所)

抜き取り後の結果(2袋分)



(「野幌森林づくり塾」植栽箇所)

ニセアカシアの母樹の様子



(「団体型森林づくり」植栽箇所)



(「野幌森林づくり塾」植栽箇所)